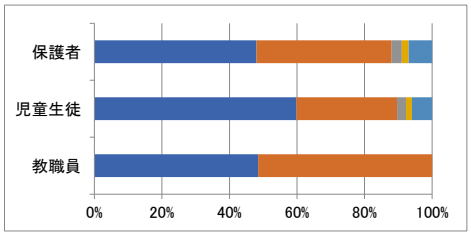
令和７年度　学　校　評　価

そう思う　どちらかといえば、そう思う　どちらかといえば、そう思わない　そう思わない　わからない

（１）主体的に考え行動する力を育む教育の推進

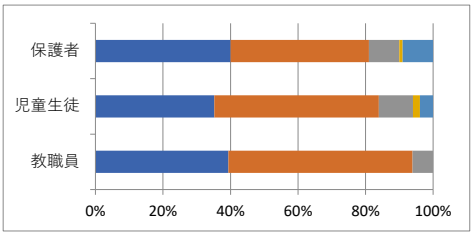
１ 豊かな心と健やかな体を育む教育の推進

学校は、豊かな心と健やかな体を育む教育の充実に努めていると思いますか。（感動・感謝、郷土愛、いのちを大切にする心、こどもの体力向上、基本的な生活習慣など）



２ 自ら学びに向かう力を育む教育の推進

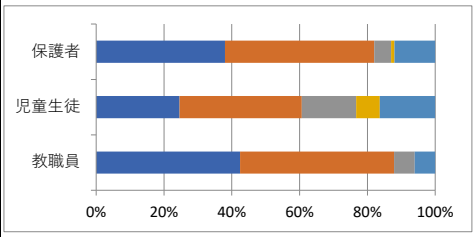
学校は、こどもが自分で考え、自分から取り組む授業づくりに取り組んでいると思いますか。



（１）主体的に考え行動する力を育む教育の推進

３ 社会の形成や持続的発展に主体的に貢献する力を育む教育の推進

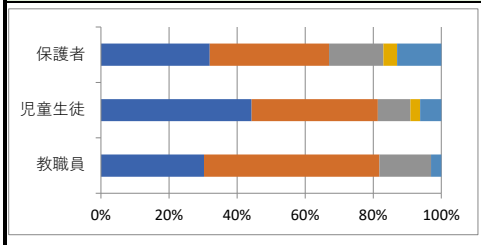
学校は、学校生活や地域社会をよりよくするために考えたり、行動したりするこどもの育成に、取り組んでいると思いますか。（児童会・生徒会活動、学校のきまり見直し、地域のよさを伝えたり課題解決したりする取組、ナイストライ（中学校）など）



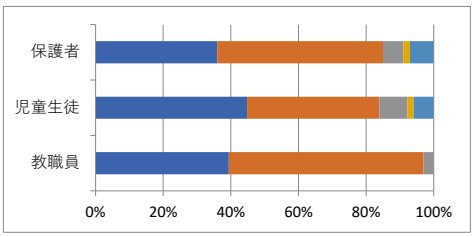
（２）こども一人一人を尊重した教育の推進

４ ５ 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実

学校は、こどもが、学習の方法やペースを自分で選んだり決めたりしながら学ぶ授業づくりを行っていると思いますか。



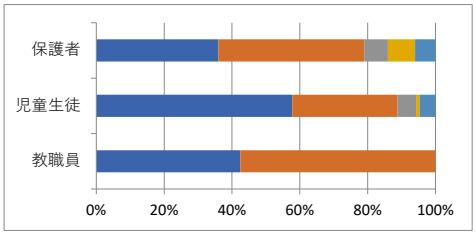
学校は、こどもが、対話などを通して、他の人の考えや意見を自分の学びに生かすような授業ができていると思いますか。



（２）こども一人一人を尊重した教育の推進

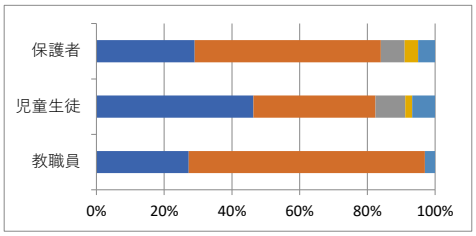
６ 特別支援教育をはじめとする多様な教育的ニーズに対応した支援の充実

学校には、こどもが助けを必要とするときに、先生や友達から支えてもらえる温かな雰囲気があると思いますか。



７ インクルーシブ教育の推進

学校では、こどもがそれぞれの違いを認め、お互いを尊重し合って共に学び合っていると思いますか。



考察

いずれの項目においても保護者・児童・教職員ともに肯定的な評価が多く、学校の取組が概ね支持されていることが分かる。特に「豊かな心と健やかな体の育成」では、児童と教職員の評価が高く、日常の指導や学校生活を通した積み重ねが成果として表れている。一方、「自ら学びに向かう力」については立場による評価の差が見られ、今後は児童自らが、主体的に学ぶこと、協働的に問題を解決することのよさを実感できる授業づくりの工夫や取組の可視化を通して、さらなる理解と共通認識を深めていく必要がある。

保護者・教職員は肯定的評価が高く、学校が児童会・生徒会活動や地域と関わる取組を通して、児童の主体性を育てようとしていることが伝わっている。一方、児童の評価はやや低く、自分たちの活動が社会や学校の改善につながっているという実感が十分ではないことがうかがえる。今後は、活動の目的や成果を振り返り、社会とのつながりを実感できるような工夫が求められる。

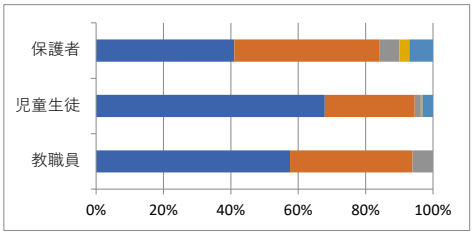
教職員においては、昨年度と比較して双方とも15%ほど肯定的意見が上昇している。教職員が日頃から意識して取り組んだ成果と言えよう。また児童においても、自分で学び方やペースを選ぶ学習や、対話を通して学びを深める活動を実感している。一方で、保護者の評価にはやや差も見られるため、授業参観や懇談会、学級通信などを通して取組の意図や成果を丁寧に発信し、理解を深めていくことが今後の課題である。

児童の肯定的評価が高く、困ったときに支え合える温かな学校と捉えていることがうかがえる。教職員も高い評価を示しており、児童への配慮に高い意識を持っていることが伺える。一方、保護者には中立的な回答も一定数見られ、支援の具体的な取組や成果が十分に伝わっていない可能性がある。項目7では、三者とも肯定的評価が高く、インクルーシブ教育が日常の学びの中で定着していることが確認できる。

（3）最適な教育環境の整備

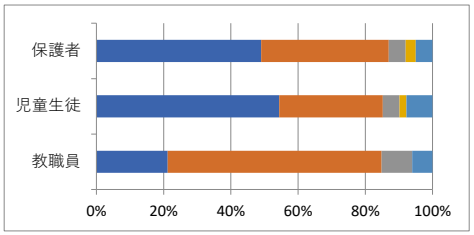
8 安全・安心な園づくりの推進

学校は、こどもの安全を守る環境の整備を進めるとともに、安全教育（生活・交通・防災など）に取り組んでいると思いますか。



9 地域や家庭と連携した教育環境の整備

学校は、地域や家庭の人と協力して、授業や行事などの教育活動を進めていると思いますか。

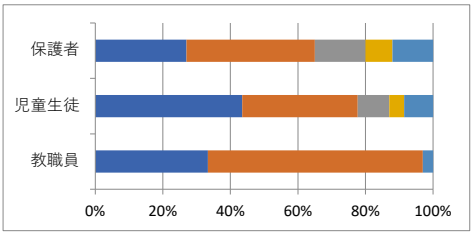


項目8では昨年と比較しても保護者・教職員においても評価がのびており、学校全体で安全・安心な園づくりに取り組んできた成果が見られる。来年度は児童の視点での安全点検を実施するなど、さらに安全への意識の向上を目指したい。項目9では、保護者・児童は連携の取組を肯定的に捉えている一方、教職員はやや控えめな評価となっており、より効率的で質の高い連携の在り方を模索している様子がうかがえる。今後は校務分掌等の見直しや地域行事等に関する役割整理と連携の工夫が求められる。

（4）こどものいのちと権利の擁護

10 こどもの最善の利益を守る環境づくり

学校は、こどもの意見を反映させ、こどもの権利を守るとともに、こどもや保護者が相談しやすい学校づくりに取り組んでいると思いますか。

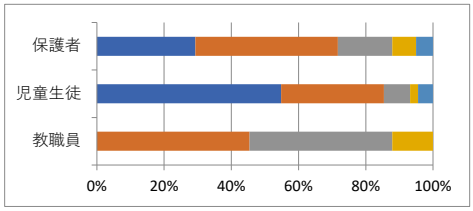


児童・教職員の肯定的評価が高く、児童の意見を生かし権利を守ろうとする学校の姿勢が校内では共有されていることが分かる。一方、保護者は肯定的ではあるものの中立的な回答も一定数見られ、相談のしやすさや取組の具体像が十分に伝わっていない可能性がある。今後は情報発信と対話の機会を充実させ、安心感の向上を図りたい。

独自項目

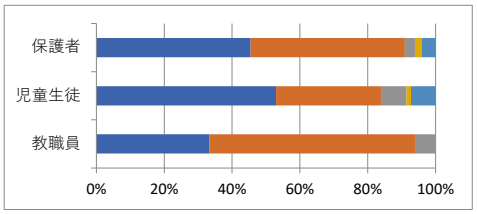
気持ちのよい挨拶

白山小学校の子どもは、進んで気持ちの良い挨拶をしていると思いますか。



健康への取組

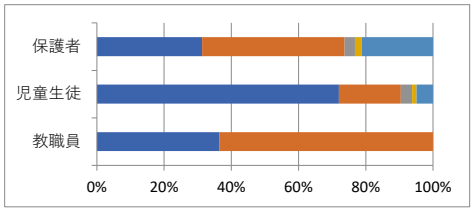
学校は、学校保健委員会やおひさマンカード、おひさマンタイム等により、児童が健康的に過ごそうとする取り組みをしていると思いますか。



挨拶に関しては、児童の肯定的評価が高く、学校での挨拶を意識している様子がうかがえる。一方、教職員はやや厳しい評価であり、継続的な指導の必要性を感じていることが分かる。健康への取り組みでは、保護者・児童ともに高評価で、健康づくりの取組が理解され、日常生活に生かされているといえる。今後は教職員間で成果の共有を進めたい。

独自項目3

学校は、学校経営目標である「生命(いのち)」を大切にする学校づくりに取り組んでいると思いますか。



学校経営目標「生命（いのち）を大切にする学校づくり」について、児童の肯定的評価が特に高く、日常の指導や活動がこどもに実感として伝わっていることがうかがえる。一方、保護者・教職員は肯定が多数ながらも児童ほど高くはなく、通信等を通して取組の意図や成果をより丁寧に発信し、共有していくことが今後の課題である。

来年度の具体的な取組について

学校評価アンケートの結果から、教職員や児童の評価は高い一方で、保護者の評価が低い項目が見られた。これは、学校の取り組みやその成果、活動の意図が十分に伝わっていないことが要因の一つであると考えられる。来年度は、保護者への説明と共有の機会を充実させるため、学級懇談会の回数を増やすとともに、対話を重視した懇談会の持ち方を工夫する。学校・学級通信や掲示物を通じて、日常の教育活動や児童の成長の様子を積極的に発信していく方法も検討したい。また、学習面では地域との関わりを意識した学習活動を創造し、その意義や成果を児童自身が振り返る場面を設定することで、学びの価値を自覚させるとともに、保護者への理解促進にもつなげる。さらに保護者との教育相談の全員実施や学校や外部への相談機関・相談体制の周知を通じて、保護者の安心感の向上を図りたい。

小中学校関係者評価

教職員の取り組みを保護者へ的確に伝えることは容易ではないが、学校目標をキャッチフレーズ化し、折に触れて発信している工夫は有効であり、理念の共有と理解の促進に役立っていると感じた。こうした取り組みは学校の方向性を分かりやすく示し、浸透を図る上で意義ある実践だと感じた。今後も地域・PTA・教職員が連携し、協働して児童の教育にあたる体制を大切にしていきたい。児童と保護者双方の成長につながる活動について、今後も前向きに検討していけるよう、情報を共有していきたい。児童が安心して落ち着いた学校生活を送れている様子がうかがえた。